

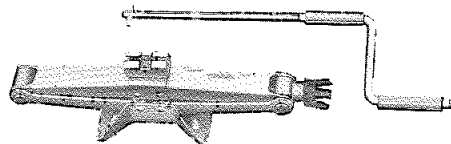
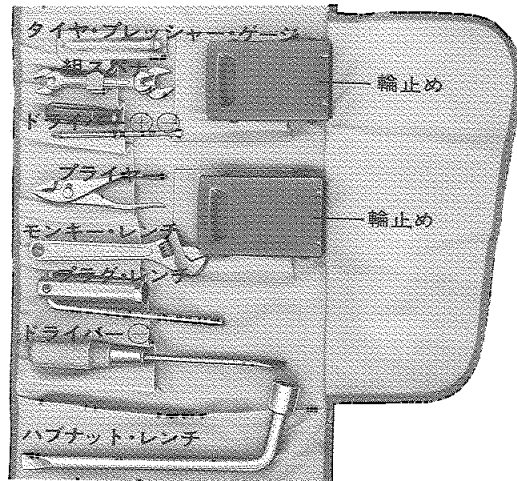
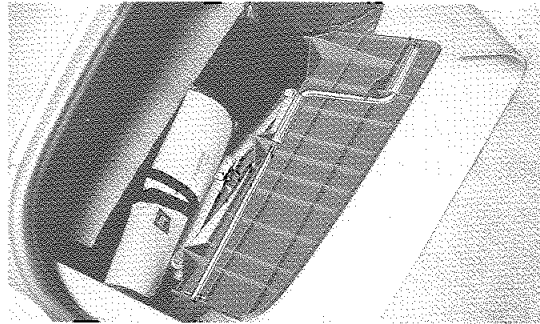


車の簡単な手入れと処置

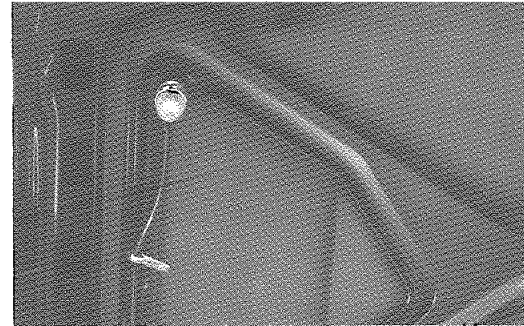


工具とジャッキ

■格納位置



点検灯 <L車のみ>



エンジン・フード裏側に、エンジン・ルーム・ランプが取り付けられています。

これは、ライトコントロール・スイッチがONのときエンジン・フードを開けると自動的に点灯し、エンジン・フードを閉めると消えます。夜間のお車の点検などにご利用ください。

冷却水の交換

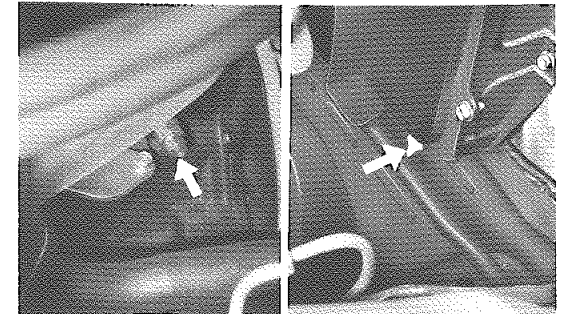
マークII車には、必ずロングライフ・クーラントをご使用ください。

キャッスル・ロングライフ・クーラントは、冷却水と不凍液とを兼ねていますから、四季を通じて使用でき、2年または40,000kmまで交換する必要はありません。

使用中は3カ月毎に点検し、30%(寒冷地は50%)濃度を維持するよう努めてください。

冷却水の交換

- 1 = エンジン・ドレイン・プラグをはずす。
- 2 = ラジエータ・ドレイン・コックをはずし、ラジエータ内を洗浄します。



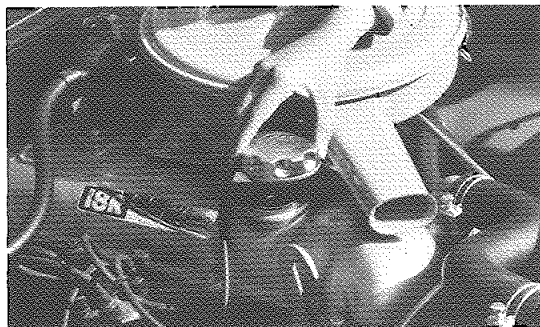
- 3 = エンジン・ドレイン・プラグを取りつける。
 - 4 = ラジエータ・ドレイン・コックを取りつける。
- <注意>

1. 冷却水を補給する場合はラジエータ内の冷却水と同程度の濃度のものを補給してください。

ラジエータ内濃度……30%(凍結防止温度)−17℃
寒冷地では濃度……50%(凍結防止温度)−40℃

2. 新車および冷却水交換の場合は、エンジン内に空気が残り走行 1,000km程度までは冷却水の減少が見られますが、異常ではありません。走行 1,000km程度で点検・補給してください。

2 = エンジン・ドレーン・プラグを取りつけ、オイル・ファイラー・キャップをとりはずしオイルを注入する。

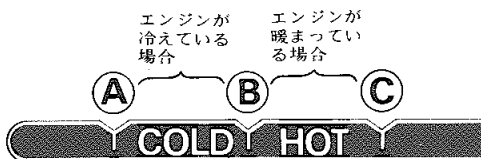


オイルはトヨタ純正キャスル製品をご使用ください。

オートマチック・ トランスミッション・ フルードの点検

〈オートマチック・トランスミッション車〉

- 1 = 車を水平な場所におき、エンジンをアイドリング状態で①にします。
- 2 = レベル・ゲージをきれいにふき再びもどして点検します。



3 = フルードが不足しているときは、規定量まで補給してください。

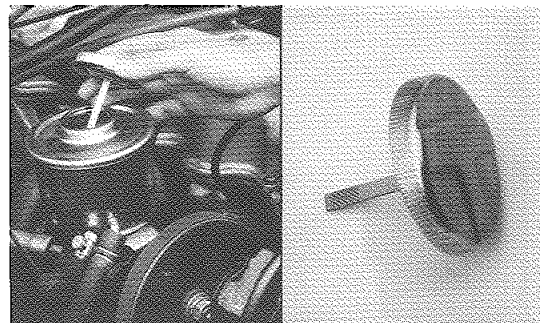
オートマチック・トランスミッション・フルードは、必ずトヨタ純正キャスル・オートフルード・スペシャルをご使用ください。

〔オートマチック・トランスミッションの補給は〕規定量入れましょう。

規定量以外ですと作動がにぶくなります。

パワー・ステアリング・ オイルの点検

〈L車オプション仕様〉



パワー・ステアリングのオイル量を 5,000km 走行程度ごとにお調べください。

キャップを左に回して取り、オイルがキャップ・ゲージの目盛内にあるか確認します。

パワー・ステアリングのオイルには、必ずキャスル・パワー・ステアリング・フルードをお使いください。

エンジン オイルの交換

1 = エンジン・オイル・ドレーン・プラグをはずす

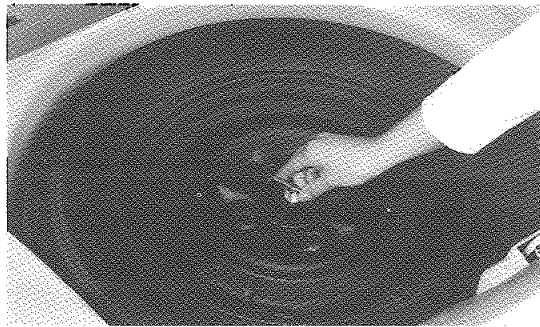


パンクの処置

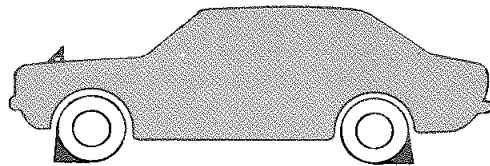
■パンクの処置

車を道路の左はしによせて

- 1 = 工具、ジャッキ、スペア・タイヤをとり出します。
- 2 = スペア・タイヤは蝶ネジを左にまわしてとり出します。

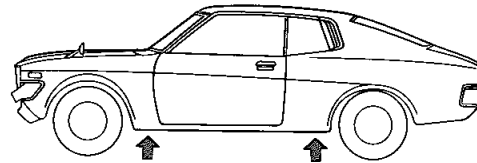


- 3 = 輪止めをします。



左側パンク時……右側前後のタイヤ
右側パンク時……左側前後のタイヤ

- 4 = ジャッキがはずれたときの危険防止のため、スペア・タイヤをパンクしたタイヤのボデーの下に置きます。
- 5 = ホイール・キャップをドライバーではずします。直接ホイール・キャップに指をかけて引くことはやめてください。
- 6 = ジャッキをセットします。

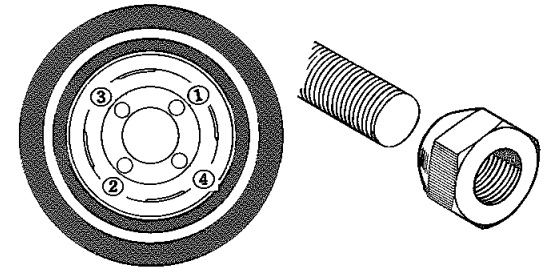


交換する車輪に近いサイド・レールの切りかき部にジャッキの受けをはめます。

- 7 = タイヤが、がたつかない程度にハブ・ナットをハブ・ナット・レンチでゆるめます。
- 8 = タイヤと地面とが少しあくまでジャッキ・アップします。



- 9 = ナットをはずします。
- 10 = タイヤをとりかえます。
- 11 = タイヤがガタつかない程度にナットを締めます。このときナットの方向をまちがえないように確かめましょう。



- 12 = ジャッキをはずします。
- 13 = ナットを確実に締めつけます。
- 14 = タイヤの空気圧を正規にします。
- 15 = タイヤの空気口にキャップの穴を合わせホイール・キャップをとりつけます。
- 16 = 工具をもとにもどし、パンクしたタイヤは、すぐ修理しておきましょう。

〈注意〉

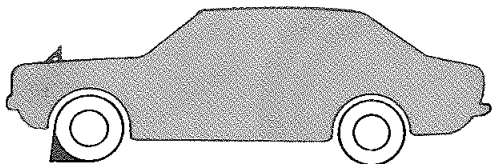
チューブレス・タイヤのパンク修理の場合は、チューブレス・タイヤを修理できる工場で行なってください。

タイヤチェーン

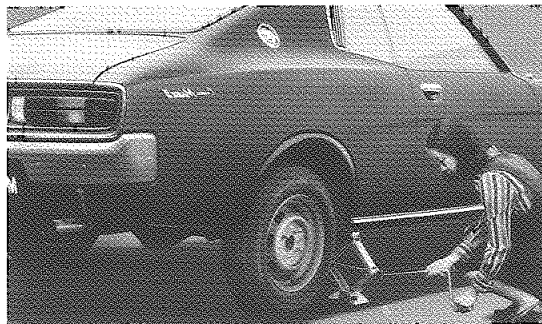
タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。

〈取り付け方〉

1 = 前2輪に輪止めをします。

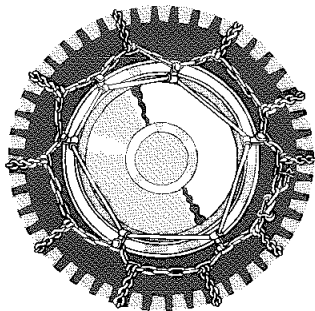


2 = 後輪をジャッキ・アップします。

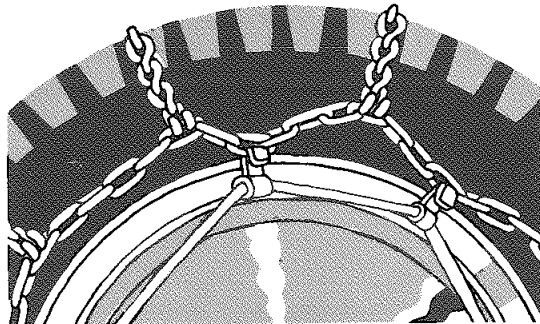


3 = クロス・チェーンの折り曲げを外にして後輪にかぶせます。

4 = チェーンの両端を連結します。チェーンが余ったときは針金で結びます。



5 = チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンをひっぱります。



6 = ジャッキをはずします。

〈取りはずし方〉

チェーン・バンドをはずし、内側クリップを先にはずします。

スペア・タイヤにタイヤ・チェーンを取り付けてからタイヤ交換をすると簡単にできます。

〈注意〉

タイヤ・チェーンを装着して悪路走行する場合は車速を50km/h以下で走行してください。

ヒューズ、ランプ類の交換

〈故障のしらべ方〉

運転席右足もとのヒューズ・ボックスのカバーにヒューズ容量と主回路名が記入してあります。

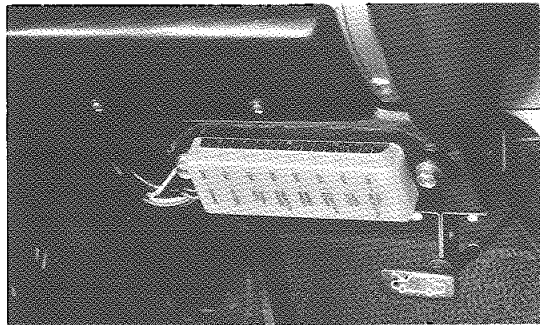
そのヒューズの受けもっている配線全部が作動しないときはヒューズ切れと考えられます。

1つだけ作動しないときは、ランプ切れかまたは配線に不具合があります。

配線に不具合のある場合はサービス工場で点検を受けてください。

〈ヒューズの交換〉

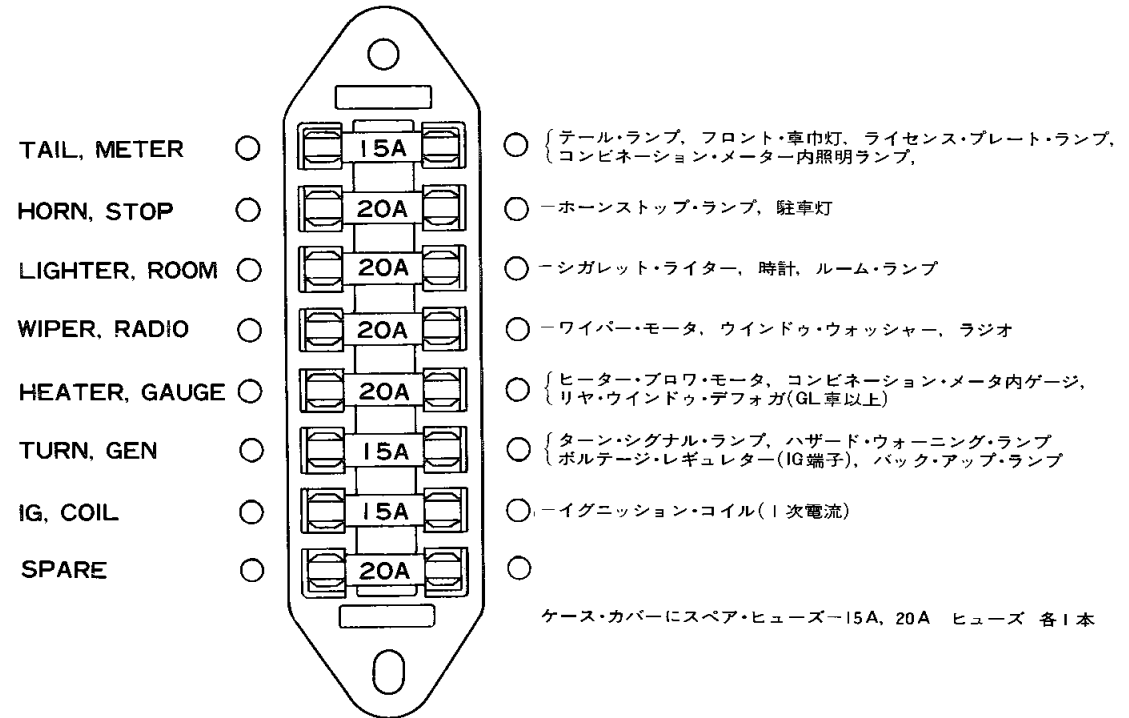
1 = ヒューズ・ボックスのふたをとります。



2 = ヒューズをはずします。

3 = 切れたものと同容量のヒューズを交換します。何度もヒューズが切れる場合は、針金、銀紙等を使用しないで、サービス工場で点検を受けてください。

各ヒューズの受持っている電気関係の部分は下図のようになっています。



■断線したヒューズを発見するための一覧表

不具合箇所 (点灯作動 せず) ヒューズ	テ ー ル ラ ン プ 左右	フ ロ ン ト の 車 巾 灯 左右	ラ イ セ ン ス ブ レ ー ト ラ ン プ	コ ン ビ ネ ー シ ヨ ン メ ー タ 内 照 明 ラ ン プ	ホ ー ン	ス ト ッ プ ラ ン プ	駐 車 灯	シ ガ レ ッ ト ラ イ タ	時 計	ル ー ム ラ ン プ	ワ イ パ モ ー タ	ウ イ ン ド ウ オ ッ シャ ー	ラ ジ オ	ヒ ー タ ブ ロ ワ モ ー タ	コ ン ビ ネ ー シ ヨ ン メ ー タ 内 ゲ ー ジ	バ ッ ク ア ッ プ ラ ン プ	タ ー ン シ グ ナ ル ラ ン プ	ハ ザ ー ド ウ ォ ー ニ ン グ ラ ン プ	ボ ル テ ー ジ レ ギ ュ レ タ ー (I G 端 子)	イ グ ニ ッ シ ヨ ン コ イ ル (一 次 電 流)
TAIL. METER 15 A	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>																
HORN. STOP 20 A					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>													
LIGHTER. ROOM 20 A								<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>										
WIPER. RADIO 20 A										<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>								
HEATER. GAUGE 20 A													<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
TURN. GEN 15 A															<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
IG COIL 15 A																				<input type="radio"/>
SPARE 20 A																				

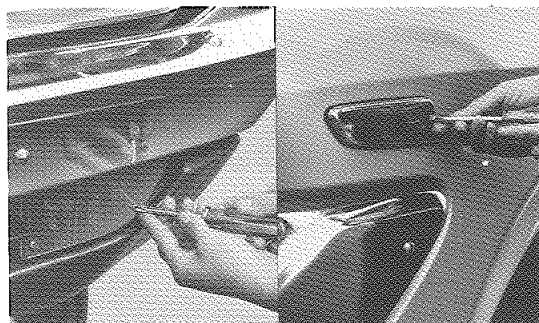
〈ランプの交換〉

フロント

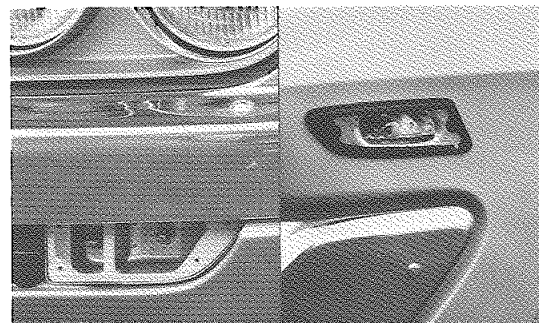


- 1 = サイド・ターン・シグナル・ランプ
- フロント・ターン・シグナル・ランプ
- フロント・パーキング・ランプ

①ビスをはずします。

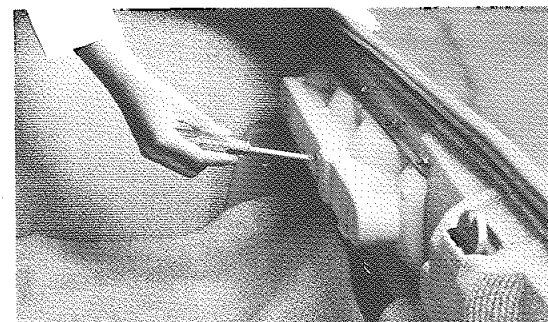


②ランプは押して左にまわしてははずします。

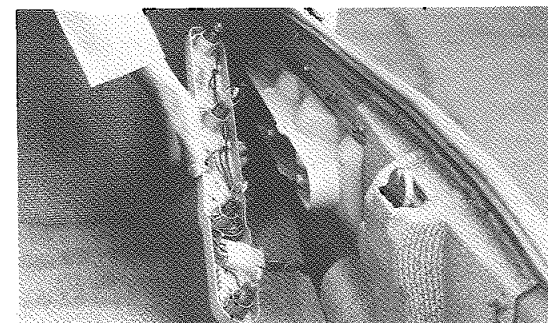


- 2 = リヤ・コンビネーション・ランプ

①トランクをあげカバーをはずします。



②ランプ・ソケットを左にまわしてははずします。



- 3 = ナンバー・プレート・ランプ

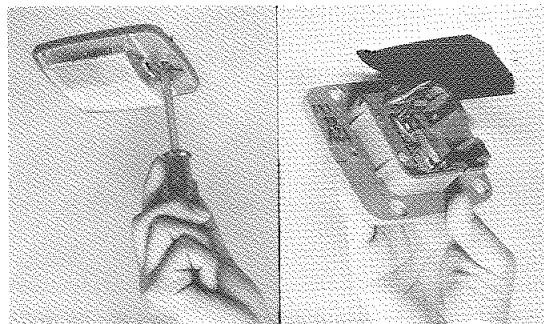


リヤ



4 = ルーム・ランプ

- ①スイッチをOFFにしてビスをはずします。
- ②ランプは、ひっぱってははずします。



〈注意〉

ダブル・フィラメントの電球は、方向性があります。電球のボッチの位置にご注意ください。

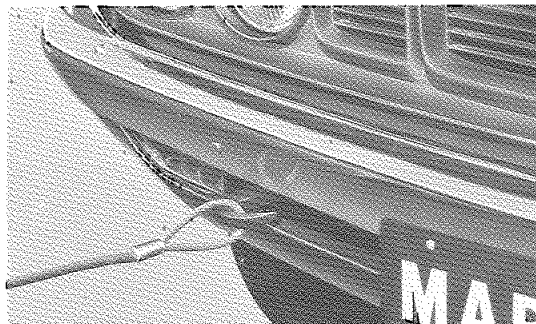
- テール&パーキング・ランプ……………7/3.4W
- ターン・シグナル・ランプ……………23W
- ストップ&テール・ランプ……………23/8W
- バック・ランプ……………23W

けん引について

〈けん引ロープをかける位置〉

フロント

けん引フック（オプション）を取り付けてください。けん引フック以外には、絶対ロープをかけないでください。

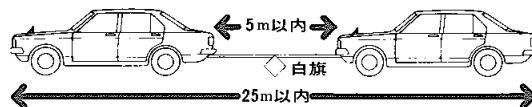


リヤ



左側のリヤ・フックは絶対使用しないでください。

〈けん引のしかた〉



けん引される車は常にロープがたるまないように気をつけましょう。

塗装の手入れ

車を美しく保つには、日頃のお肌(塗装)の手入れが必要です。

ボデーのほこりは柔らかい布か毛ばたきでとりましょう。

塗装面が汚れたときは、なるべく早く洗車をし、汚れのひどいときは洗剤を使用しましょう。

また塩分が付着したときは必ず洗車しましょう。ワックスがけは適時、ボデーにつやのなくなったとき行なってください。

〈洗車方法〉

- 1 = 下まわりを洗いましょう。
- 2 = スポンジかセーム皮で水量をたっぷりにして洗いましょう。
- 3 = 汚れのひどいときは、必ずカーシャンプーを使用してボデー温度が体温以下になってから洗いましょう。
- 4 = 塗面に、はん点が残らないよう十分水分をふきとりましょう。

〈けん引されるときの注意〉

故障して、けん引されるときは、次のようにしてください。

- 1 = ④にして30km/h以下で行なってください。
- 2 = オートマチック・トランスミッション内部に故障があり、動かすと不具合があると思われるときは、後の車輪をつり上げるか、プロペラ・シャフトをディファレンシャル側ではずしてからけん引してください。

〈ワックスがけ〉

- 1 = 1 カ月に 1 度または水をはじかなくなったらとき行なってください。
- 2 = 使用方法はワックスに記されていますからよく読んでお使いください。
- 3 = ワックスがけはポデーが体温以下になってから行なってください。
高温では塗装面が柔らかくなっていますからしみになる恐れがあります。